



吹き付けの壁に、つけ住がキリりと交差。和型の瓦を乗せた屋根も風情たっぷりだ。よく見るとその上には、瓦と同じ素材で作られた角が! (1P目右上写真)



キッチン裏手にある廊下。浴室からは手前の中庭が見える。浴室の窓には外から中が見えないブラインド内蔵のペアガラスを採用



左/窓から陽が差し込むバスルーム。朝風呂も楽しみに。右/トイレの床にも部屋と同じく浮造りの床材を取り入れた



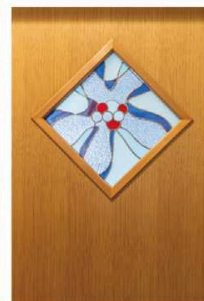
食器などが取まったキッチンの壁面収納は「ハウズランド社」の直作。システムキッチンにテイストを合わせた



和室から土間を通して庭が眺められる。右奥のスペースが水屋。その左の丸窓は、外観のアクセントにもなっている



Oさんの実家にあった欄間。美しい富士と松の絵柄が客間に華やさを添えている



寝室とトイレのドアにはスタンドグラスを。「展示場で見ていた時に気に入って、取り入れてもらいました」



リビングサイドの書斎には、以前から所有していた本棚を配置。歴史や陶芸に関する書籍はここにまとめた

COMPANY DATA
株式会社 ハウズランド社
福岡県春日市天神山2-83
連絡先
TEL 092-593-2220
HPアドレス
www.h-land.jp
詳しい情報は
00ページに掲載

いつも心地よさを感じられる
細やかな配慮を随所に

ゲストを迎える日だけでなく、日々「この家でもよかった」と思えるというOさん。「リビングの蓄熱ヒーターのおかげで、冬の朝もサッと起きられ、調湿性に優れたスベイン漆喰の壁のおかげで夏も快適です」。またキッチン裏に洗面とバスルームを、寝室の隣にトイレを置くなど、無駄のない動線にも注目だ。「他界してしまいましたが、妻のリクエストを採用していただき、本当に感謝しています。今では家事もほごこなせるようになったというOさん。リビング前の庭では、トマトやサニーレタスなどが元気に育っていた。好奇心とチャレンジ精神旺盛な人生は、この家の歴史とともに、これからもますます充実したものになりそうだ。

プロの提案で取り入れた
土間という空間の効果

Oさんの家を語るにあたり、欠かせないのが二間続きの和室と土間だ。「二間続きの和室に広縁をと考えていたんですが、ハウズランド社の社長より「土間にしませんか」と提案いただいた。やってみると大正解ですね。空間にすこく広がりを感じます」。この和室は水屋を併設しており茶室としても使えるほか、作品の展示会場としても使われることがあり、多くの客人を迎える際にも土間が活躍してくれている。「特に用事がない日、ここから庭や空をのんびり眺めるひとときもお気に入りです」。

ほかにも、風情のある丸窓や、あえて塗りを加えず自然の風合いを生かした檜の柱など、室内には粋な装飾が施されている。一角には、繊細な模様が美しい欄間も。「これは、築150年ほどの私の実家の和室にはめられていたものです。取り壊しの際、思い出にと大切に持っていたものを今回、美しく磨いて取り入れていただきました。温故知新を大切にすることが、ここにも息づいていた」。